



※一般質問の内容は議員自身が9月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和5年9月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。

※部長名は、字数の関係上「部長」で統一して表記しています。



つじむら たける
辻村 岳瑠
(明和)

人口減少時代の市街化調整区域の土地利用について

問 市街化調整区域の土地利用の一つ、新清水インターチェンジ周辺地域の交通利便性を生かし、流通産業の導入を進めると構想はしているが、市の基本計画及び土地利用構想図には反映されない理由は。

部長 具体的な施策を定める土地利用計画については、新清水インターチェンジから内房までのエリアの大部分は、傾斜度が15度以上という診断などから、大規模な開発は課題がある。

問 具体的に土地利用構想図に落とし込めない理由は分級図だと思う。その法的根拠を伺う。

部長 法的に分級を行わなければならない、ということはない。

問 旧芝川エリアは防災・水資源のエリア分類

である。今後の森林整備の優先度は高い地域という理解でよいか。

部長 森林譲与税など考慮するような形にはなるかと思う。

問 2040年を見据えた芝川地域の土地利用構想に関して伺う。

部長 市街地のスプロール化を防ぎつつ、それぞれの集落の活力や独自性のある、各拠点形成とネットワークによる都市構造の実現を目指していく。

市長 国道469号の整備、清水富士宮線、道路網の整備も大事な一面である。いずれにしても、市街化調整区域を市街化区域にという思いは、私たちも同じである。共に力をあわせて頑張っていきたい。

意見 今後大きな変化である人口減少や経済縮小を考慮し、土地利用計画も変化する必要がある。第6次富士宮市総合計画では、芝川地域の西側エリアを活性化することが市全体の発展につながると考える。



いなば こうじ
稲葉 晃司
(無会派)

富士医療圏の630問題について～地域医療を守るために2023その1～

問 630問題の解消に向けた取組として、今、富士宮市ができることは何か。

病院長 静岡県内における630問題において、富士医療圏が突出して多いことは承知している。特に、受け入れ医療機関が減少する平日昼間の12時から14時までの時間が多く、この時間帯にファーストタッチできる体制の構築が必要である。市立病院の救急室は、初期救急医療を担う一時救急医療機関の後方病院として、2次救急医療機関の責務を果たすために24時間365日入院や高度な医療等が必要な重篤な患者の受け入れを行っている。また、1次救急で対応すべき患者の受け入れも2次救急患者の受け入れに支障をきたさない範囲で行っているが、630問

題が少しでも改善するよう、救急患者の受け入れに努めていく。また、富士医療圏の新富士病院やフジヤマ病院からも630問題に積極的に協力したいとの話をいただいているので、今後連携を図っていきたい。

問 救急かけはしの取組と成果はいかがか。

部長 救急かけはしの取組として、地域や福祉関係者に対して説明会や登録などの依頼を行っている。市民健康講座の開催や救急フェアにおいて、救急かけはしのブースを設置するなどして市民への周知を働きかけている。現在市のウェブサイト上で説明書や同意書をダウンロードできるようになっているが、今後、市内に住む高齢者のご家族が遠方にいる場合でも、容易に申請ができるように電子申請の受付も検討している。成果として、令和5年9月26日時点で2,574人登録され、救急隊が検索を行った際に該当者に情報が繋がった回数の割合が、令和4年度の2.7%から令和5年度現時点で9.4%と増加している。